



# じょし 所有を表す助詞

## ポイント

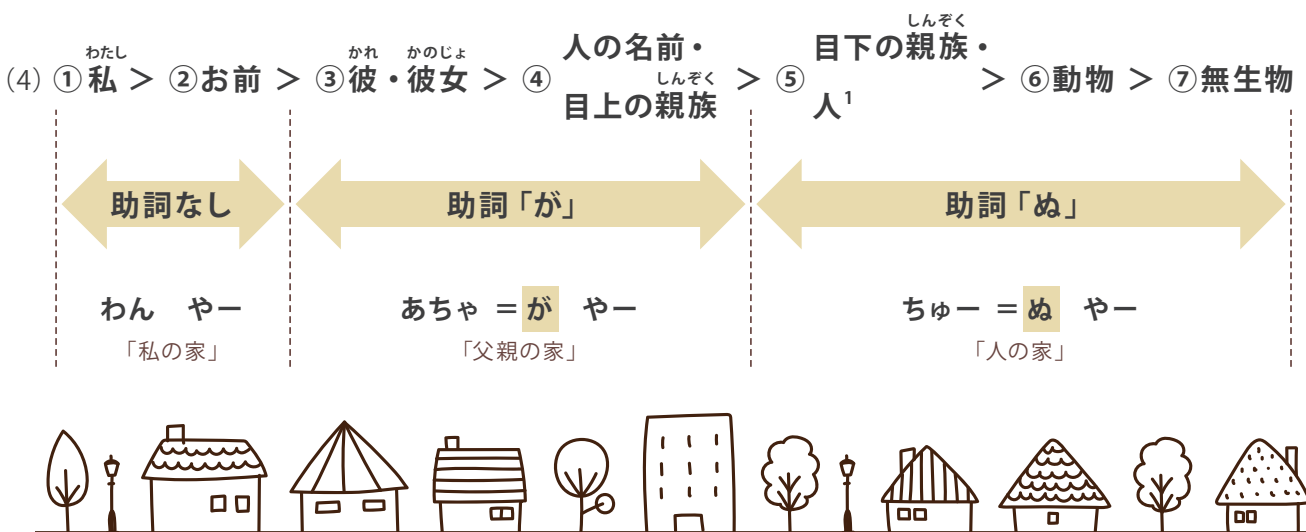
- 日本語の「～の (「私の本」など)」は、しまむにでは、  
①「何も付けない(助詞なし)」、② 助詞「が」、③ 助詞「ぬ」のいずれかで表す。
- ①、②、③の表し方は、前の名詞の意味によって使い分ける。

日本語では「私<sup>わたし</sup>の家」「父<sup>ちち</sup>の家」「人<sup>ひと</sup>の家」など、ものの持ち主などを表す時に「の」という助詞<sup>じょし</sup>を使います。しまむにでは、日本語の「の」<sup>の</sup>に対応する言い方として3種類の言い方があります。

(1)では「家」の持ち主の「私<sup>わたし</sup>」に何も助詞<sup>じょし</sup>がついていません。(2)では「家」の持ち主の「父親<sup>ちち</sup>」に、助詞「が」がついています。(3)では「家」の持ち主の「人<sup>ひと</sup>」に、助詞「ぬ」がついています。

(1) わん やー 私 家 わたし 「私の家」	(2) あちゃ = が やー 父親 の 家 「父親の家」	(3) ちゅー = ぬ やー 人 の 家 「人の家」
----------------------------------	------------------------------------	----------------------------------

この3つの表し方は、どのように使い分けられているのでしょうか？ この使い分けは、「主語と目的語」の回でも出てきた「有生性の階層」という言語学の理論で説明できます。「有生性の階層」とは、簡単にいうと「名詞を(自分に近い)生き物らしい順番にならべたもの」で、しまむにでは、(4)のようになります。



1 「男」「女」などの抽象的な人の名詞。

所有(～の)を表す時に、

- ① 私、②お前の名詞は、助詞を何もつけません。
- ③彼・彼女と④人の名前・目上の親族の名詞は、助詞「が」を付けます。
- ⑤目下の親族・人⑥動物⑦無生物は、助詞「ぬ」を付けます。

このように、しまむにで所有や所属などを表すときには、名詞の意味によって、助詞の有無や種類を使い分けているのです。

練習問題

以下の名詞を使って、①～⑥をしまむにに直してみましよう。

わん <small>わたし</small> (私)	うら(あなた)	みー(兄)	いんが(男)
くわー(子・子ども)	みやー <small>ねこ</small> (猫)	ふい(声)	たろう <small>たろう</small> (太郎)

「ゝ」は、小さい「っ」のように、のどをしめる音を表す。

① 私わたしの子ども ( )

② 太郎たろうの子ども ( )

③ 猫ねこの子ども ( )

④ 男の声 ( )

⑤ 兄の声 ( )

⑥ あなたの声 ( )